

2013年3月29日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 福岡県糟屋郡志免町別府西 3-8-15
社会医療法人 栄光会 栄光病院
代表者 理事長 下稲葉 康之



2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成 に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1 研究・研修事業 2012年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業

2 期 間 2012年4月1日 ～ 2013年3月31日

3 報 告 書 I 事業の目的・方法

II 内容・実施経過

III 成果

(上記I～IIIをA4縦判・横書6,000字程度にまとめる)

IV 収支報告

① 助成金の主な用途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)

② 当該助成金に関わる部分の決算書「写」

(貴機関の全会計決算書でなく、当該助成計上部分のみで可)

* 決算期の関係で2013年3月19日までに「写」を提出できないときは提出

予定日を記入(提出予定日 2013年6月20日)

V 添付書類

当該施設の研修カリキュラム (パンフレットでも可)

I. 事業の目的・方法

1) 目的

末期がんやその他の重篤疾病による死亡者が年々増加する中、ホスピスや緩和ケア病棟に従事する熟練ナースの不足は深刻である。この事は、とりもなおさず一般病院・一般病棟におけるターミナルケアに対する認識・取り組み・経験が未熟であることを示している。

ホスピス・緩和ケア体制の充実のためには、その事に関心のあるナースを育成し、ターミナルケアの裾野を広げることが先決であると考ええる。

したがって、

- ① 一般病棟における、ターミナルケアに対する意識の向上
- ② 一般病院・一般病棟における緩和ケアの充実
- ③ ホスピス・緩和ケア病棟に従事するナースの充足
- ④ ホスピス・緩和ケアの教育体制の充実を目指すことを目的として、研修活動を実施する。

2) 方法

- ① 笹川記念保健協力財団及び日本看護協会が選考した看護師に対し、指定された期間に実習を実施する。

- ② ナースのためのホスピス緩和研修実施要項の発送
(資料 1 ～ 3 参照)

- ③ 研修申込書に基づき受入れ準備
・ 緩和ケア病棟 ・ 宿泊寮

- ④ 研修担当者による打ち合わせ
・ スケジュールについて
・ 実習担当について
・ 期間中の世話係について
(以上 資料 4 ・ 5 参照)
・ その他の資料による案内
「栄光病院のごあんない」「手と目と（病院機関誌）」「ホスピス通信『ホスピトラ』」
「ホスピスのあんない」

⑥ 研修開始

- ・ 実習の進行状況把握、調整
- ・ 研修の目的が達成できているか、毎週金曜日に懇談会を持ち確認を行い修正する。
- ・ 希望に基づき、講義を行う。

Ⅱ. 内容・実施経過

1) 研修内容

実習

- ① 日勤（希望があれば夜勤も）を勤務ナースとともに、患者・家族と接しながら、その技術的対応の仕方、精神的関わり、方法について学ぶ。
- ② 症状コントロールの実際を担当ナースについて学ぶ。
- ③ インフォームドコンセントの必要性・留意点を学ぶ。
- ④ チームの役割・チームアプローチについて実際に学ぶ。
- ⑤ ボランティア活動の実際を知る。
- ⑥ 回診に同行して、コミュニケーションの取り方・患者の反応を学ぶ。
- ⑦ 在宅ケアに同行して、実際に学ぶ。
- ⑧ 患者様の前夜式・お葬式・追悼祈念会への参加を通して、グリーフケアを学ぶ。

講義：希望時・必要時行う

- ① 全人的ケア
- ② 疼痛・症状コントロール
- ③ スピリチュアル・ケア
- ④ コミュニケーション
- ⑤ ボランティアの関わり など。

2) 実施経過

1) ナースのためのホスピス緩和研修実施スケジュールを土台に実施

① オリエンテーション

- 研修全期間のスケジュール・内容
- 研修期間中の心得

② 病棟におけるオリエンテーション

- 病棟の構造
- 一日の流れ（日勤・夜勤）
- 研修体制・担当者の紹介
- 患者紹介

③ 実習開始

- 担当ナースと行動をともに実習する（「緩和ケアナース研修生チェックリスト」あり）

④ 進行状況をチェックし、講師と時間調整を行う。

⑤ 毎週末に、懇談会を行い効果的な実習になるように調整・修正する。

2) 評価

① 研修生と担当者・関係者と懇談

- 研修全体について、評価・反省・感想を尋ね
- 目的が達成されたかを確認

② 研修レポートの提出を要請

③ レポートの内容と、実習状況より評価を行う。

3) 修了式

修了証書授与

記念品贈呈

Ⅲ成果（2012 年度）

<実習生実数>

上期 3 名、 下期 3 名 計 6 名

<研修指導者>

研修責任者・研修オリエンテーション＝看護部長

研修指導者＝病棟師長、主任および日々の担当看護師、認定看護師

<研修内容>

1 週目：病棟オリエンテーション、在宅ホスピス見学、

日々の患者ケアに当日担当看護師と共に参加する。

2 週目：個人の研修目標を確認しつつ、スタッフと共に患者に関わる。

週末(金曜日)に、担当看護師・看護部長をまじえて研修生と中間評価を行う。

3 週目：希望者のみ夜勤研修の組み入れ・・・夜勤帯の患者の状態を把握する。

最終週としてホスピスケア全体の疑問解決に向け行動する。

最終日に病棟師長・看護部長をまじえて研修生と最終評価を行う。

<院内講義>

① ホスピスにおける全人的ケア	担当：ホスピス長	2 時間×1 回
② 症状コントロール	担当：ホスピス医長	2 時間×1 回
③ ホスピスにおけるリハビリ	担当：リハビリ士	30 分×1 回
④ スピリチュアルケア	担当：病院チャプレン	1 時間×1 回
⑤ ホスピスボランティア	担当：ボランティアコーディネーター	1 時間×1 回
⑥ ホスピスの食事	担当：管理栄養士	30 分×1 回
⑦ 口腔ケア	担当：歯科衛生士	30 分×1 回

<関連実習（任意）>

- ① 在宅ホスピスケア（訪問看護同行）
- ② ホスピス外来見学
- ③ 音楽療法士、MSW 等と必要に応じて懇談
- ④ 在宅ホスピスカンファレンス出席

<ビデオ学習(当院作成のビデオ)>

- ① 「いのち輝け」 25 分
- ② 「いのちの質を求めて」 30 分
- ③ 「幸福な死を迎えたい」 25 分

<体験学習>

定期—主任の指導および担当スタッフの同行にて行う。

- ① 日勤業務
- ② 夜勤業務(任意)
- ③ 受け持ち患者とのかかわり

不定期—実習期間中の患者の状況によって実習体験は均一ではないが、良い学びとなるので、出来るだけ参加していただいている。

家族会、誕生会、お茶会、季節の催し物、看取り式・お別れ式、前夜式、院内葬儀 など

☆別紙「緩和ケアナース研修生チェックリスト」添付

所感

「ナースのためのホスピス緩和ケア研修」の最終となった今年度は、計 6 名の方々に
越しいただいて、共に学びあえる機会を頂きました。

過去 15 年にわたり、毎年全国各地からの研修生を受け入れ、また当院からもこの研修に
述べ十数名のナースが参加させていただき、多くのことを学ばせて頂きました。

あらためてこれまでの経過を振り返り、日本のホスピス緩和ケアを取り巻く時代の流れ
と変化を実感しています。今日ではホスピス緩和ケアに関してその重要性も広く知られる
ところとなり、今後は更にはがん拠点病院との連携や、在宅ホスピスの推進など、時代のニ
ーズに応じたケアシステムの構築が求められていくと思います。

研修生それぞれの背景は、すでに緩和ケア病棟で役職を持って勤務されている方、これ
から緩和ケア病棟新規立ち上げに関わる予定の方、あるいは一般病院の緩和ケアチームの
メンバーとして活動を始めの方等様々で、施設の状況に応じてそれぞれの立場での具体的
な課題を持って参加され、3 週間の研修期間のなかで、充実した学びをしていただけたこ
とと思います。最終日の振り返りの会合の中では、研修生の方々がこの研修を機に自分自身
の基本的な看護観について考え直し、それを深めることができたと感じておられること、
当院の理念である『癒し癒される医療』に触れ、研修生御自身も癒されたとの感想を持た
れたことなどに、現場のスタッフ共々大変励まされております。

自分自身の中に新しい発見をされた研修生の方々が、看護の基本とも言えるホスピスマ
インドを大切にしながら日々のケアを深められますように、そしてこの研修で得られた貴重
な人的ネットワークを大切にしながら、今後もそれぞれの場所において邁進されますよう
に願います。

平成 25 年 3 月

社会医療法人 栄光会 栄光病院
看護部長 中島長子